

自治体の課題、現状

本町では、令和5年度に町内の1中学校と3小学校が再編され、2校の義務教育学校として開校した。地域の要望を受け、2校合同の「北方学園クラブ」が発足し、運動系では12種目の地域クラブが展開されている。令和3年度から休日の部活動の地域展開を進めており、現時点では、地域展開に向けた体制整備はほぼ完了している。一方で、指導者の確保や研修体制の充実、また、参加者（部員）数減少に伴う他市町中学校との連携等、解決すべき課題が残されている。

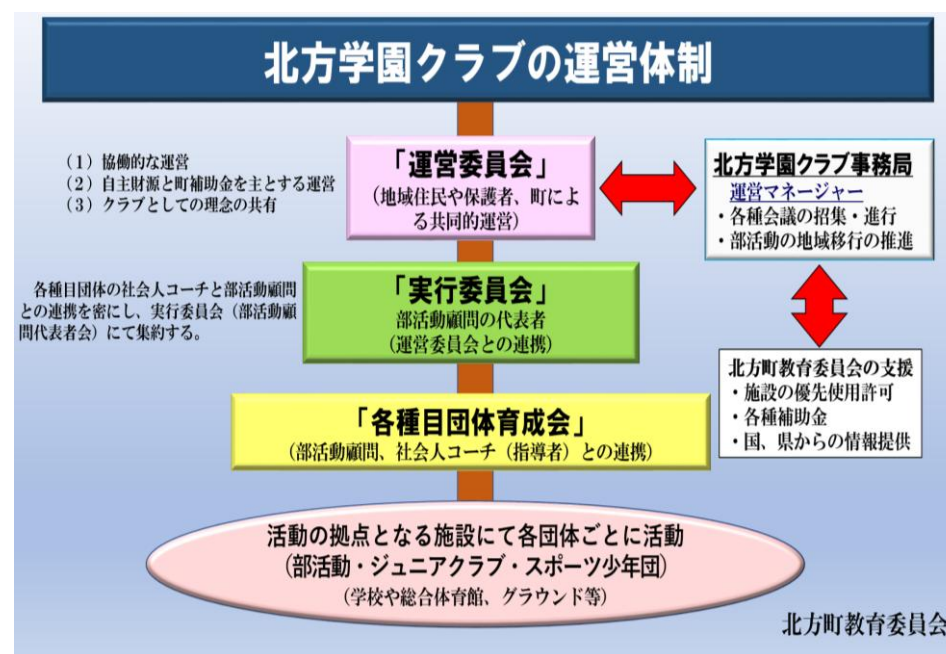
地域クラブ活動等の概要

義務教育学校数	2校	全生徒数	529人
域内の部活動数	12部	実施した地域クラブ数	12クラブ
全体の指導者数	28人	全体の運営スタッフ数	1人
主な運営団体	北方学園クラブ		
主な種目	野球、バスケ（男・女）、バレー（男・女）、サッカー、陸上、剣道、卓球、ソフトボール、ソフトテニス、ダンス		
平均的な活動回数	6回/月	年間平均参加生徒実数	3年：7人/クラブ 2年：6人/クラブ 1年：6人/クラブ
参加会費	* クラブごとに異なる (例) 野球1,000円/月	主な活動場所	北方学園・南学園

取組の概要や成果

- **県育成研修会を周知し、指導者に対して研修を実施する。**また、県の育成研修会の周知をする。現時点で、兼職・兼業の教育を除く21名の指導者の内、11名が日本スポーツ協会等の指導者資格を保有している。今年度は、**教員の兼職・兼業の社会人指導者**として7名を確保した。
- **指導者への謝金の上限を増やすとともに、土日、祝日への指導にも対応できるようにした。**現在、**12種目クラブのうち、9クラブにおいて複数の指導者を配置した。**今後は、**全クラブに2名以上の指導者配置を目指す。**
- **年に5回、計画的に部活動担当者会を実施した。**指導状況等についての情報交流を行い、改善策の検討についての共通理解を図った。
- 年度当初に、部活動顧問や社会人指導者、育成会長が一堂に会せる**連絡会**を実施することで、スムーズなスタートを切ることができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

- 当町は、生徒数、人口ともに横ばいの状態が続いているが、生徒の志向の変化により、近年、野球部、剣道部が廃部となり、部活動数及び加入者が減少している。
- 地域展開の取組の現状は、令和3年度に協議会を行い、4年度から休日の活動として坂祝中クラブ活動を実施している。
- 地域展開を進める上での課題は、指導者及びクラブ員の確保、継続的な活動体制の確保である。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	212人
域内の部活動数	7部	実施した地域クラブ数	6クラブ
全体の指導者数	23人	全体の運営スタッフ数	7人
主な運営団体	町教育委員会		
主な種目	サッカー、男女バスケットボール、女子バレーボール、卓球、ソフトテニス		
平均的な活動回数	6～7回/月	年間平均参加生徒実数	3年:5.0人/クラブ 2年:5.5人/クラブ 1年:5.0人/クラブ
参加会費	サッカー：12,000円/年 男女バスケットボール：6,000円/年 卓球：2,000円/年 ソフトテニス：5,000円/年 バレーボール：7,600円/年	主な活動場所	坂祝中学校及び町内体育施設

取組の概要や成果

休日の活動は学校部活動ではなく、町に登録された地域クラブとして実施している。登録や責任に関わる手続きは教育委員会が担い、指導については各地域クラブに登録された指導者が担当する。

特に指導者確保のため、岐阜県が実施する地域クラブ指導者育成研修会への参加を必須とし、受講した指導者には町が謝金を支払うこととした。その結果、現在26名が指導者として登録しており、町からの謝金支払いにより、保護者の経済的負担軽減にもつながっている。

運営体制図

坂祝町教育委員会

- 教育委員会の管轄として団体の登録を行う。
- 活動については、保護者や地域指導者のもとで主に休日に、活動を行う。
- 施設の利用料は学校だけでなく、町の体育施設も免除
- 代表者会を適宜行う。

坂祝中クラブ

坂祝中学校

- 学校管理下での活動
- 主に平日の放課後、顧問の元で指導を受ける。
- 部活動登録を行う。
- 公式戦等の予定調整

坂祝中部活動

連携

連携

連携

保護者会

自治体の課題、現状

- 本町は中学校が1校のみであり、町全体の人口はわずかに減少傾向にあるものの、特に中学生数は大幅に減少している。
- 以前から、中学校の各部活動には地域指導者が参加し、学校顧問に代わって専門的な指導を行ってきた。
- 中学生数の減少に加え、部活動が全員加入から任意加入へと変わったことも影響し、種目によっては人数不足により活動が困難となる可能性が生じている。
- 川辺スポーツクラブへの運営活動費をどの程度支援していくかについては、町の財政状況と照らし合わせながら決定していく必要がある。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	251人
域内の部活動数	10部	実施した地域クラブ数	8クラブ
全体の指導者数	21人	全体の運営スタッフ数	4人
主な運営団体	総合型スポーツクラブ（川辺スポーツクラブ）		
主な種目	軟式野球、ソフトテニス、ボート、バレーボール、美術		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：6.0人/クラブ 2年：6.8人/クラブ 1年：6.0人/クラブ
参加会費	1,800円/月	主な活動場所	川辺中学校

取組の概要や成果

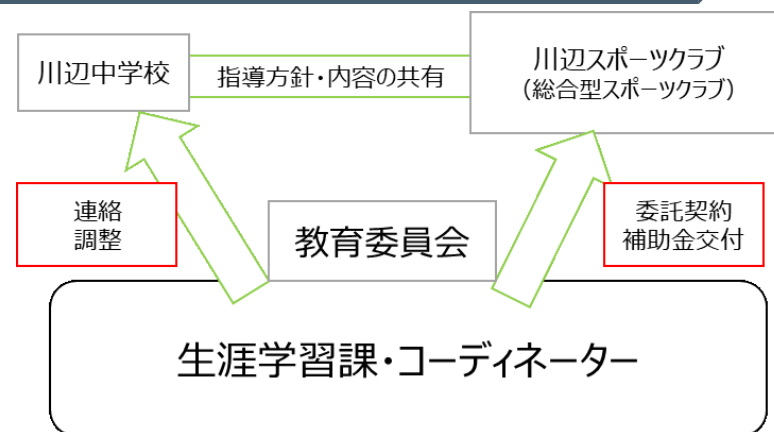
【主な取組】

- 川辺スポーツクラブへの人的支援、理事会への参加と助言
- 川辺スポーツクラブ指導者との連携、研修
- 川辺スポーツクラブ保護者会への支援
- コーディネータによる学校と川辺スポーツクラブとの調整

【成果】

- 休日部活動の地域展開を完了することができた。
- 各実施主体による対外試合では、学校顧問が引率せず、保護者を中心に引率を行う体制を整えることができた。
- 川辺スポーツクラブでは、持続性を意識した運営を進めることができた。
- 実施主体の保護者が主体となり、地域クラブの活動を積極的に展開することができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

当町には上麻生中学校と神淵中学校の2校があったが、今年4月に統合し、七宗中学校1校となった。全生徒数は64名で、部活動は男女合わせて3部が存在する。そのうち、地域展開ができていない運動部が2部ある。

その要因として、学校統合に伴う部活動数の減少や、少子化による部員数の減少が挙げられる。また、近年は競技志向の強い生徒ほど他地域のクラブチームに加入する傾向が強まっている。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	64人
域内の部活動数	3部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	七宗町教育委員会		
主な種目	バドミントン		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：4人/クラブ 2年：3人/クラブ 1年：3人/クラブ
参加会費	2,500円/月	主な活動場所	七宗中学校体育館

取組の概要や成果

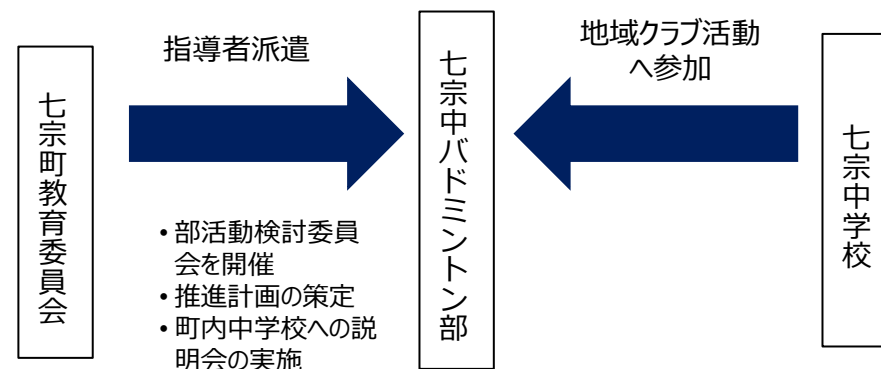
【取組】

- ①地域クラブ代表者会において、地域クラブ指導者や保護者と情報交換を行い、それぞれが抱える課題や困りごとに寄り添った支援策を検討した。
- ②地域クラブ指導者には、岐阜県主催の地域クラブ指導者育成研修会への参加を義務付け、指導力向上に取り組んだ。
- ③連絡ノートを活用し、学校の先生との情報共有・連携を図った。

【成果】

- ①指導者が抱える課題や今後の改善点を共有することができた。
- ②保護者からの「地域クラブ運営に関する課題」等の意見を把握し、共有することができた。
- ③研修会への参加義務化により、指導者の指導力向上に取り組むことができた。
- ④部員の現在の状況や活動内容について、学校との連携を図ることができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

町内2校には合計13の部活動があり、そのうち運動部活動は12部である。生徒数は222人だが、今後10年で約半数の121人まで減少すると予想されている。また、部活動加入率も70%を下回っており、現時点でも学校単独での運営が難しくなっている種目が増えている。さらに、立地の関係から、保護者の送迎やスクールバス等の支援がなければ活動が成立しない状況にある。

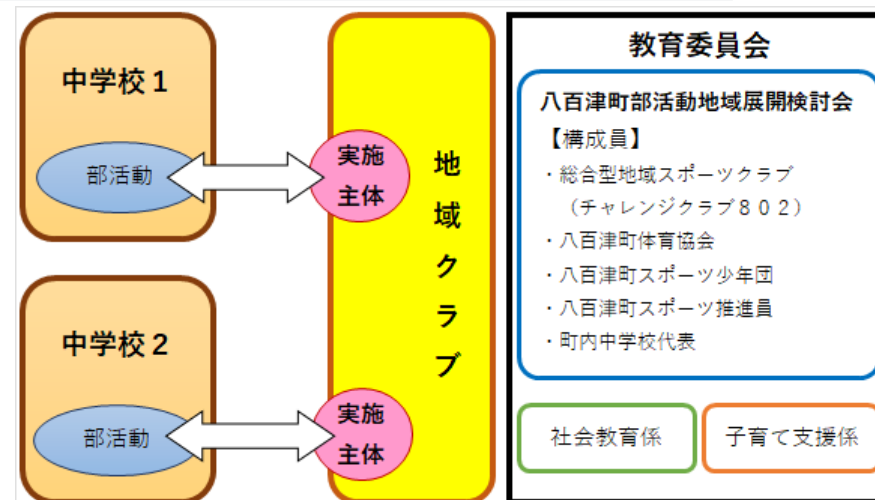
地域クラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	222人
域内の部活動数	12部	実施した地域クラブ数	9クラブ
全体の指導者数	22人	全体の運営スタッフ数	22人
主な運営団体	八百津町地域クラブ		
主な種目	野球、サッカー、女子バレーボール、卓球（2校）、剣道、ソフトテニス（2校）、男子バスケットボール		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：6.2人/クラブ 2年：6.8人/クラブ 1年：5.0人/クラブ
参加会費	1,000円/月	主な活動場所	中学校

取組の概要や成果

- 八百津町部活動地域展開検討会を、昨年度に引き続き実施し、県内の動向や地域の課題等について情報共有と協議を行った。
- 地域クラブのすべての実施団体にクラブ指導者を配置することができ、年間を通して安定した活動が可能となった。また、8月には指導者向け研修会を実施し、情報交換の場も設けることができた。
- 今後の指導者確保に向け、町の広報誌にて地域クラブの紹介とあわせて指導者募集を行った。

運営体制図



- 教育委員会（社会教育係） 監督・謝金支払い、検討会議、保険、研修手続き、施設の予約管理、社会体育施設利用者との調整
- 教育委員会（子ども支援係） 学校・指導者等連絡調整、学校のヒアリング、相談対応、交通手段手配
- 部活動地域展開検討会 町内部活動の現況、国、県の情報の共有、課題検証、協議

自治体の課題、現状

本町には2つの中学校があり、部活動の変遷の歴史はそれぞれである。平成29年3月に「一般社団法人スポーツリンク白川」が発足して以降、学校部活動と連携した地域クラブ活動の運営団体としてその役割を果たしている。今後は学校再編（中学校の統合）を視野に入れ、平日の活動を含めた部活動の地域展開について、本町の実情に即した内容で進める必要がある。謝金規定の見直し（財源の確保）や、2つの中学校との連携（活動時間や活動場所の確保等）等の課題があり、運営団体となる「一般社団法人スポーツリンク白川」の体制強化が課題である。

地域クラブ活動等の概要

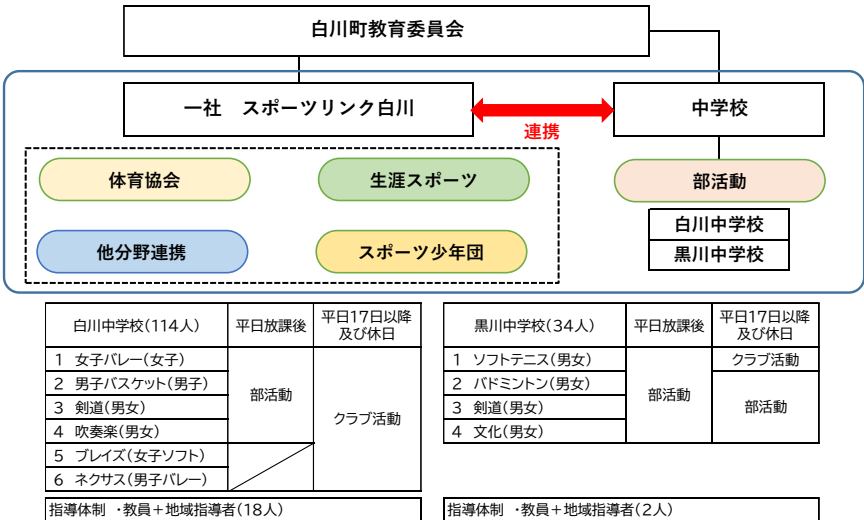
中学校数	2校	全生徒数	148人
域内の部活動数	8部	実施した地域クラブ数	6クラブ
全体の指導者数	20人	全体の運営スタッフ数	6人（代表者）
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ		
主な種目	バスケットボール、バレーボール、剣道		
平均的な活動回数	平日：週に2回程度（1回2時間） 休日：週に1回程度（1日3時間）	年間平均参加生徒実数	3年4.5人 2年5.0人 1年3.3人
参加会費	クラブ年会費1,000円 各クラブ運営費（平均）3,000円/月	主な活動場所	白川中学校

取組の概要や成果

学校統合を見据えた令和9年度から平日及び休日の活動を展開するための実証・検証を行う。

- ① 地域移行コーディネーターの設置【体制の整備】
☞ コーディネーターを設置することで推進体制の整備を図る。
- ② スポーツリンクバスの運行（平日）【関係団体・分野との連携強化】
☞ 佐見地区から通学する生徒について、スポーツリンク活動時の移動手段を確保する。休日は公共交通が利用できるようダイヤの維持・確保をする。
- ③ 地域指導者謝金の支払い【指導者の質の保障・量の確保】
☞ 地域指導者の確保を図るとともに、謝金の在り方について実証・検証を行う。
- ④ 持続可能なクラブに向けた取組【運営団体・実施主体の整備】
☞ 生徒数の減少によりクラブ活動を支える人材も不足するため、持続可能なクラブの在り方の検討に取組む。

運営体制図



自治体の課題、現状

本年度は、学校部活動から御嵩町地域クラブへ地域展開を進め、複数の中学校の生徒がともに活動できる機会をつくることができました。また、運営については保護者が中心となって担い、地域指導者が指導の核となって活動を展開している。

さらに、事前に作成した「御嵩町地域クラブ運営の手引き」は、保護者が抱く疑問の解消や、各種手続きの円滑化に有効な資料であることを確認することができた。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	468人
域内の部活動数	0部	実施した地域クラブ数	10クラブ
全体の指導者数	20人	全体の運営スタッフ数	52人
主な運営団体	みたけスポーツ・文化倶楽部（総合型地域スポーツクラブ） 教育委員会学校教育課		
主な種目	バスケットボール、バレーボール、卓球、ソフトテニス、軟式野球		
平均的な活動回数	10～11回/月	年間平均参加生徒実数	3年：6人/クラブ 2年：5人/クラブ 1年：6人/クラブ
参加会費	1,000～1,500円/月	主な活動場所	町内各中学校施設

取組の概要や成果

- ・地域クラブへすべての部活動を地域展開したことで、子どもの居場所づくりに向けて保護者が協力し、前向きに取り組む姿が多く見られた。
- ・種目の技術指導はみたけスポーツ・文化倶楽部が担い、生徒指導や保護者対応については学校が協力する体制を構築した。その結果、学校からは「技術指導における負担が軽減され、学校業務に専念しやすくなった」との声が寄せられた。
- ・昨年度に実施した指導者講習会や連携会議についても継続して行うことができた。また、地域クラブの中には、自分たちが取組たい内容を主体的に企画し活動する実施主体も生まれつつある。

運営体制図

